

肺炎球菌肺炎の病態とワクチンによる予防 ～定期接種制度を踏まえて考える地域の 予防戦略～

山崎 善隆

成人肺炎球菌ワクチン戦略は、結合型ワクチン PCV20 の導入により転換期を迎えた。従来の多糖体ワクチン PPSV23 と比較し、PCV20 は T 細胞依存性免疫を誘導してメモリー B 細胞を形成するため、単回接種で強力かつ長期的な予防効果が期待できる。侵襲性肺炎球菌感染症（IPD）の重症化リスクが高い 65 歳以上の高齢者や慢性疾患等のハイリスク成人において、PCV20 の単独接種が新たな標準的推奨として位置づけられる。過去の接種歴や新たな広範カバー型ワクチン（PCV21 等）の登場も視野に入れ、個々のリスクや血清型置換の疫学動向に応じた最適な接種戦略の確立が求められている。